

## 第6学年 家庭科学習指導案

い組 男子18名 女子20名 計38名

指導者 福丸 奈津子

### 1 題材 生活に役立つ物を作ろうⅡ～家族へのおくり物～

#### 2 題材について

##### (1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、目的に応じた縫い方で手縫いをする学習や、手縫いとミシン縫いのよさを生かして既製品を加工する学習をしてきた。その中で、もっといろいろな物を作りたいとか、家族のために役立つ物を作ってあげたいといった願いをもってきている。また、できるようになったことを振り返り、家庭生活においてどのような役割を果たしているか見つけ直す学習を通して、自分が家族を構成する一員であることを実感し、家族の願いを実現するためには家庭生活における役割を果たす必要性に気づき、「家族の役に立ちたい」という願いをもってきている。

そこで、本題材では、作品の大きさや形を考えて布を裁ったり布を縫い合わせたりする活動を通して、一枚の布から作品を製作する手順や方法が分かり、友達と教え合ったり話し合ったりしながら協力して目的に応じた工夫をして、生活に役立つ布製品を作り上げることができることをねらっている。さらに、布を加工することで作品の使い道が無限に広がることから、目的に応じて工夫しながら製作する楽しみを味わうとともに、贈る相手や用途によって見た目のよさや使いやすさなどを考えて、家族の生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、衣服の役割に関心を持ち、衣服を計画的に活用・選択することができ、布を用いて生活を豊かにするために工夫しながら製作することができる中学校の学習へと発展していく。

##### (2) 指導の基本的な立場

布で作られた物は、可塑性に富み丈夫で肌触りがよく、用途に応じて加工しやすいというよさがあり、我々の日常生活において必要不可欠な物となっている。また、手縫いやミシン縫いのよさを生かして立体的な布製品を作れるようになることは、厚みやゆりみを考えて目的に応じた採寸の仕方や縫い方の選択などができるという力を高めることができる。さらに、自分の家庭生活や家族に応じて作品を製作することは、自らよりよく工夫できることを見つけて加工したり、自分で作り上げた楽しさを味わったりするとともに、作った物が自分の家族の役に立ち家庭生活中で活用することができるなどのよさがある。

これらのことより、自分の家庭生活に応じて家族のために生活に役立つ布製品を作ることは、製作する意欲を高め、これまでに身に付けた知識や技能、生活を工夫する力を駆使して、自分の生活を豊かにしようとする実践的な態度を育てる上から大切である。

そこで、本題材では、家族の用途に応じた形や大きさに布を裁ったり見通しを持って製作を進めたりすることができるようになることや、自分の家庭生活や家族のために生かされる喜びや楽しさを味わわせたりすることを大切にしていこう。そのために、家族の誰が何を必要としているか家庭生活を観察させたり、試し作りから課題を明確に持たせたりする活動を取り入れたりする。更に、各活動が自分の家庭生活にはどのように生かされるのかつなげて考えられるようにさせていきたい。

具体的には、まず、自分の家庭生活を振り返り、布製品がどのような場面で活用されているかを考えさせ、製作への意欲を高めさせていく。次に、試し作りをし、製作過程における課題を明らかにさせる。そして、使用目的に応じた課題について調べたり話し合ったりして追求し、分かったことを生かして製作させていく。

これらの学習を通して、大きさや形、厚みなどの視点に気付いたり、目的に応じた工夫の仕方が分かったりするとともに、家族の家庭生活中に役立つ物を製作することができるようになった喜びや自分が製作した物が家庭生活中で活用される喜びを実感することで、自分の家庭生活をさらに豊かなものにしようとする実践的な態度を高めることができるようにする。

### (3) 児童の実態（質問紙法，複数回答有り）

#### ① 布製品のよさ

丈夫 11, 洗える 4, 可塑性 4, 分からない 4, 縫える 3, 壊れにくい 3, 温かみ 2, リサイクル 2, 伸びる 2, 肌触り 1, 使いやすい 1, 音がしない 1

#### ② 手作りのよさ

思い 14, 好みのデザイン 7, 肌触り 5, 達成感 4, 使いやすい 3, 分からない 3, 自分らしさ 2

#### ③ 製作時に気を付けること

返し縫いをする 28, 縫い目が見えないように 22, 大きさ 8, 二重に縫う 7, 丈夫にする 5, 玉留め・玉結びをする 3, 肌触り 3, 三つ折りを 3, 糸がほどけないように 2, 使う人のことを考える 1

#### ④ ゆるみの必要性

気付いている 2, 気付いていない 36

#### ⑤ 家庭で生かしたいか

○ はい 35 (将来役に立つ 8, 生活に役立つ 6, 家族に褒められる・喜ばれる 5, 自分に合ったものを作る 4, 自分で作る 3, 学習を忘れないように 3, 節約 2, 新しい発見 1, エコ 1, 洋服を作りたい 1, 思い出 1)

○ いいえ (役に立たない 2, 難しい 1)

#### ⑥ 学び方

本 8, 身近な人にインタビュー 7, 実際にやってみる 6, 特にない 5, 計画を立てる 4, 観察 3, インターネット 3, 友達と協力・話し合い 2, 発表 2

本学級の子どもたちは、①より、布の特性を捉えていることが分かる。一方で、布製品が家庭においてどのように役立っているかということには気付いていない。また、②より、手作りのよさには気付いているが、目的に応じて工夫できるよさにはあまり気付いていないことが分かる。これらのことから、身の回りに布製品は溢れているが、その殆どが既製品であり、家族の実態に合わせて布を加工した経験や、加工している家族の姿を目にした経験が少ないことが分かる。③より、見た目のよさや丈夫さを意識して製作することの大切さに気付いていることが分かる。このことは、5年時で学習した「生活に役立つ物を作ろう I～古着の大変身～」での学習が生かされていることが分かる。一方で、使う人や目的に応じて大きさや縫い方を変えるなどの工夫をする必要性

には気付いていないことが分かる。④より、何かを包んだり入れたりする物を製作する過程において、物の厚みを考えてゆるみをもたせて印を付けたたり裁断したりする必要性に気付いていないことが分かる。このことは、これまでの学習において、採寸をすることによって使う人や目的に応じた大きさを決めるという経験がないことが原因であると考えられる。⑤より、学習したことを自分の家庭生活中で生かしたいと感じている子が多いことが分かる。特に、「自分の生活に応じた物を作りたい」「家族のために作ってあげたい」など、学習したことを自分の家庭や家族に応じた生かし方をしたいと考えていることが分かる。また、「役に立たない」「難しい」と答えている子がいることから、家庭生活中で生かすよさやできることの喜びについて実感させる必要があると考えられる。⑥より、様々な方法で学習していきたいと考えていることが分かる。実際に行ったり観察したりする活動を大切にしながら、資料活用や友達との話し合いなどによって、一人一人が納得できる追求活動を行わせていきたい。

このようなことから、子どもたちの製作に対する気持ちを大切にしながら、実際に製作する活動を通して、製作するよさに気付かせるとともに、基本的な知識、技能の定着や生活を工夫する力を身に付けていけるようにしたい。

### (4) 指導上の留意点

- ア 生活に役立つ物を製作するよさに気付かせるために、身近な布製品の役割や家族の使用頻度などを調べて生活に役立っていることを実感させる。また、家族のために何を製作すれば生活がよりよくなるかを、家庭生活を見つめ直すことで考えさせ、自分が製作していく物を決定させる。
- イ 作品を贈る相手や使用目的に応じて、厚みやゆるみなどの製作上の課題に気付かせるために、試し作りをして、形、大きさ、縫い方、縫う順序といった観点から、自分の課題を明確にし、追求活動によって明らかになったことを基に製作計画を見直させる。また、友達と話し合いながら製作することができるように、製作する物が同じである子ども同士でグループを編成する。
- ウ 追求したことを生かしながら、家庭生活中に応じた“見た目よく、丈夫で使いやすい物”を作るために、採寸の仕方や縫い方の工夫などについて課題別グループで解決したことを確認したり試したりするコーナーを設ける。また、自分の課題を振り返りながら製作したり、それを活用したりして製作したり活用できる嬉しさを味わえるようにする。

### 3 目 標

- (1) 布を使った物が生活の中で果たす役割や作り方に関心を持ち、使いやすく作るための自分の課題を追求しながら、進んで作ろうとすることができる。
- (2) 作りたい物を構想し、製作手順や時間に見通しをもって、丈夫に手際よく作る工夫を見つけることができる。
- (3) 生活に役立つ布製の物の種類と役割をつかんで、自分の作りたい物を決め、見通しをもって製作することができる。

### 4 指導計画 (全14時間)

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ															
みつめる	布製品は家庭生活の中にたくさんあるんだなあ。	1 家庭生活で役立つ布製品について考え、作りたい物や学級のテーマを決める。また、テーマを達成するための学習計画を立て、自分が作りたい物の製作計画を立てる。①	○ 家庭生活に即した学習であることを意識させるために、家庭にある布製品について話し合わせる。															
つかむ	何を作れば家族の役に立つかな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     見た目よく、丈夫で使いやすい家族が喜ぶ物を作るためには、どのような工夫ができるだろうか。                 </div> 3 作る順序や縫い方を考えながら試し作りをして、自分の課題を設定する。②③④⑤	○ 学習に見通しをもたせたり目的意識を高めたりするために、最終的にどのような作品を作りたいか学級のテーマを決めさせ、具体的な視点をもたせる。															
見通す	どのような順序で作ればいいのか。	<問題点> ・布端がぼそぼそしていて見た目が悪い。 ・中に物を入れると空間に余裕がなくて使いにくい。	○ 課題を明らかにするために、試し作りをし、困ったところや疑問に思ったところについて、学級のテーマである見た目・丈夫さ・使いやすさという視点に沿って話し合わせる。															
追求する	試しに作ってみたら、思ったよりも小さいなあ。どこを改善すればいいのか。  使いやすくするためには、入れたり包んだりする物の厚みを考えて布に印をつけなければならないんだ。	<課題> ・布端の始末の仕方 ・採寸の仕方 ・大きさの工夫 など	○ 課題を明らかにするために、試し作りをし、困ったところや疑問に思ったところについて、学級のテーマである見た目・丈夫さ・使いやすさという視点に沿って話し合わせる。															
まとめる・生活化への意欲付け	試し作りで作った物と比べて、見た目、丈夫さ、使いやすさへの工夫がはっきり分かるなあ。  家族が喜んでくれた。また生かそう。	4 課題別グループに分かれ、課題を追求し、解決策について話し合う。⑥  5 各課題別グループで解決したことを、情報交換し合い、自分の製作にどのように生かせるか話し合う。⑦ (本時) <div style="margin-top: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>見た目のよさ</td> <td>丈夫さ</td> <td>使いやすさ</td> </tr> <tr> <td>布端の始末</td> <td>縫い合わせ</td> <td>大きさの工夫</td> </tr> <tr> <td>三つ折り</td> <td>ゆりみ</td> <td>縫い代</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>中表</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>形</td> </tr> </table>                     など                 </div> 6 追求活動や情報交換で分かったことを生かしながら製作をする。⑧⑨⑩⑪⑫  7 できあがった作品の発表会を通して、分かったりできるようになったりしたことや友達の工夫している点について話し合う。⑬  8 作品を家族へ贈ったことの報告会をし、学習したことを自分の生活にどのように生かしていけるか話し合う。⑭ <div style="margin-top: 10px; border: 1px solid black; padding: 5px;">                     見た目よく、丈夫で使いやすい家族が喜ぶ物を作るためには、家族の好みや家族の使う目的に応じて、形や大きさ、縫う場所に応じた布端の始末や縫い方の工夫をする必要がある。                 </div>	見た目のよさ	丈夫さ	使いやすさ	布端の始末	縫い合わせ	大きさの工夫	三つ折り	ゆりみ	縫い代			中表			形	○ 自分の作品に生かしたり、友達の作品に生かしたりできるようにするために、各課題別グループでは、様々な作品の場合ではどのような工夫ができるか考えさせながら追求させるようにする。
見た目のよさ	丈夫さ	使いやすさ																
布端の始末	縫い合わせ	大きさの工夫																
三つ折り	ゆりみ	縫い代																
		中表																
		形																

## 5 本 時 ( 7 / 1 4 )


### (1) 目 標

発表し合ったことを自分の作品に生かそうとし、自分の家族に応じた工夫の仕方に気付くことができる。また、布端の始末や中表の仕方などについて分かる。

### (2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、各課題別グループが追求したことを自分の製作に生かすことができるようにするために、発表はワークショップ形式で行わせ、各発表場所で自由に話合ったり自分の作品と比較したりできるような学習を展開していきたい。

### (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ															
みつめる・つかむ	1 学級のテーマを確認し、学習のめあてを決める。 <学級のテーマ> 見た目よく、丈夫で使いやすい、家族がよろこぶおくり物を作ろう。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時で学習したことを、自分の製作に生かそうという意欲を高めるために、学級のテーマに基づいて、最終的に目指す作品の視点を確認させる。</li> <li>○ 目的をもって発表したり発表を聞いたりすることができるようにさせるために、学級のテーマを確認させ、テーマを達成するためにどのようなことを意識して今日の活動を行えばいいかという視点をもたせる。</li> </ul>															
	家族がよろこぶおくり物を作るためには、どのようなことに気を付けなければならないか。																	
見通す	2 自分たちの課題について追求したことを発表し合う。 (例) バッグ	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 試し作りから得られた課題に対する意識を明確にもち、新たに分かったことと比較することができるようにするために、試し作りの作品を自由に扱うことができるようにしておく。</li> <li>○ 自分の製作に必要な情報を取捨選択して自由に得られるようにするために、発表はワークショップ形式で行わせ、各課題別グループの発表場所には説明する人を交代制で在籍させるようにする。</li> <li>○ 正しい縫い方など基礎的・基本的な知識の定着を図るために、子ども同士の情報交換の場での説明や理解が十分でない場合は、机間指導をしながら教師が補足説明や指導を行う。</li> </ul>															
追求する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>目的</th> <th>解決策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>布端の始末</td> <td>見た目 丈夫さ 使いやすさ</td> <td>取り出し口を三つ折りにする</td> </tr> <tr> <td>縫い合わせ</td> <td>見た目 丈夫さ</td> <td>中表にする 縫い代を作る 返し縫いをする</td> </tr> <tr> <td>大きさ</td> <td>使いやすさ</td> <td>ゆりみをもたせて大きさを決定する</td> </tr> <tr> <td>縫う順序</td> <td>見た目 製作しやすさ</td> <td>ポケットを付けてから縫い合わせる 脇を縫う→取り出し口を縫う</td> </tr> </tbody> </table>			課題	目的	解決策	布端の始末	見た目 丈夫さ 使いやすさ	取り出し口を三つ折りにする	縫い合わせ	見た目 丈夫さ	中表にする 縫い代を作る 返し縫いをする	大きさ	使いやすさ	ゆりみをもたせて大きさを決定する	縫う順序	見た目 製作しやすさ	ポケットを付けてから縫い合わせる 脇を縫う→取り出し口を縫う
	課題			目的	解決策													
	布端の始末			見た目 丈夫さ 使いやすさ	取り出し口を三つ折りにする													
	縫い合わせ			見た目 丈夫さ	中表にする 縫い代を作る 返し縫いをする													
大きさ	使いやすさ	ゆりみをもたせて大きさを決定する																
縫う順序	見た目 製作しやすさ	ポケットを付けてから縫い合わせる 脇を縫う→取り出し口を縫う																
3 発表し合ってから分かったことを基に、自分の作品に応じた製作方法について考える。 (例) 鍋つかみ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>得た情報</th> <th>生かす方法</th> <th>よりよくなること</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>布端の始末について</td> <td>手を入れる所を三つ折りにする</td> <td>内側に布端を折り込んで縫うと見目がよくなる</td> </tr> <tr> <td>大きさについて</td> <td>手の大きさより少し大きめにし、手の厚みの分も加えて印を付ける</td> <td>立体的である手を入れても大きさに余裕があり使いやすい</td> </tr> </tbody> </table>	得た情報	生かす方法	よりよくなること	布端の始末について	手を入れる所を三つ折りにする	内側に布端を折り込んで縫うと見目がよくなる	大きさについて	手の大きさより少し大きめにし、手の厚みの分も加えて印を付ける	立体的である手を入れても大きさに余裕があり使いやすい								
得た情報	生かす方法	よりよくなること																
布端の始末について	手を入れる所を三つ折りにする	内側に布端を折り込んで縫うと見目がよくなる																
大きさについて	手の大きさより少し大きめにし、手の厚みの分も加えて印を付ける	立体的である手を入れても大きさに余裕があり使いやすい																
まとめる・生活化への意欲付け	 <p>妹のピアノのバッグを作るために、入れる本の厚さも測ろう。いつも「重い。」と言っているから、肩にかけられるように持ち手を長くしよう。</p>																	
	4 学習のまとめをする。 使う人や使う目的に応じて、縫い方を変えたり、大きさを変えたりすればいい。																	
	5 本時の学習を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の学習で自分が高まったことを感じられるようにさせるために、「見た目よく」「丈夫に」などの目的に応じた解決策をはっきりと振り返らせる。</li> </ul>															